

低モジュラス 2 成分形シリコンシーリング材
トスシール 361
標準施工要領書

目次

III.	適用範囲	P3
I.	材料	P3
	1. シーリング材	
	2. プライマー	
	3. 副資材	
	4. 混合機	
IV.	施工	P5
	1. 施工手順	
	2. 施工前の確認	
	3. 施工	
V.	安全衛生	P8
VI.	保存方法	P8

I. 適用範囲

この標準施工要領書はモメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社製低モジュラス2成分形シリコンシーリング材「トスシール 361」の施工に適用する。

II. 材料

1. シーリング材

1-1 品名 トスシール 361 (2 成分形シリコン系)

1-2 JISA1439 による一般性状

項 目		シーリング材	トスシール361
タイプ			2成分形
荷 姿			4L
外 観		主 剤	ペースト状
		硬化剤	液状
		カラーマスター	ペースト状
比 重 (20 °C)			1.27
汚 染 性			なし
貯 蔵 安 定 性 (20 °C)			9ヶ月
加 熱 減 量 %			2.1
ス ラ ン プ mm			0
押 出 し 性 , 秒 (5 °C)			5
可 使 時 間 , 時間		(5 °C)	10
		(23 °C)	3
		(35 °C)	1.5
タ ッ ク フ リ ー タ イ ム , 時間		(23 °C)	6

保存期間～製造後9ヶ月以内のものを使用する。

2. プライマー

トスシール 361 はすべての被着体に対してプライマーを使用する。あらかじめ使用する部材の種類及びその表面状態を確認し「トスシール用プライマープロダクトデータ (RTV0093)」より適切なプライマーを選定する。プライマー選定表にない特殊被着体に対しては事前の確認試験で選定する。

項 目 プライマー		トスプライムニューF	トスプライム C
対 象 シ ー リ ン グ 材		トスシール361	トスシール361
用 途		アクリル電着、フッ素電着、各種塗装アルミ(フッ素系、アクリル系、ウレタン系)、各種ガラスなど	コンクリート、石など
外 観		淡黄色透明	淡黄色透明
荷 姿		300ml	300ml
比 重 (20℃)		0.88	1.00
成 分		シリコン系	シリコン変性ウレタン系
オ ー プ ン タ イ ム , 分	(5-10℃)	60	80
	(10-20℃)	40	70
	(20-30℃)	30	60
	(30℃以上)	20	30
塗 布 後 可 使 時 間 , 時間		8	8
貯 蔵 安 定 性 (20℃)		9ヶ月	9ヶ月
溶 剤		トルエンなど	酢酸ブチルなど

3. 副資材

3-1 清掃用洗浄剤

一般にトルエン、ノルマルヘキサン等を使用する。特に溶剤に弱い塗料、プラスチックに対しては十分注意すること。

3-2 バックアップ材、ボンドブレイカー

- 1) バックアップ材：目地寸法、目地構造に合った形状のポリエチレン発泡体を使用する。丸形と角形の形状がある。
- 2) ボンドブレイカー：ポリエチレンテープ、ポリエチレン塗布紙テープ

3-3 マスキングテープ

シーリング専用マスキングテープを用いる。その例を以下に示す。

カモ井加工紙(株) : ガラス用 G-91、一般用 No.3303

住友スリーエム(株) : シーリング用 No.2479H

3. 混合機

1) ドラム回転式(普及型)ミキサー

機 種 例 : A 型ミキスタ (ミキスタ工業(株)製) 重 量 : 約 25kg

フープ径 : 186Φ (3L 用)、229Φ (4L 用)

2) 真空脱泡型混合機

機 種 例 : 250 型ミキスタ (ミキスタ工業(株)製) 重 量 : 約 50kg

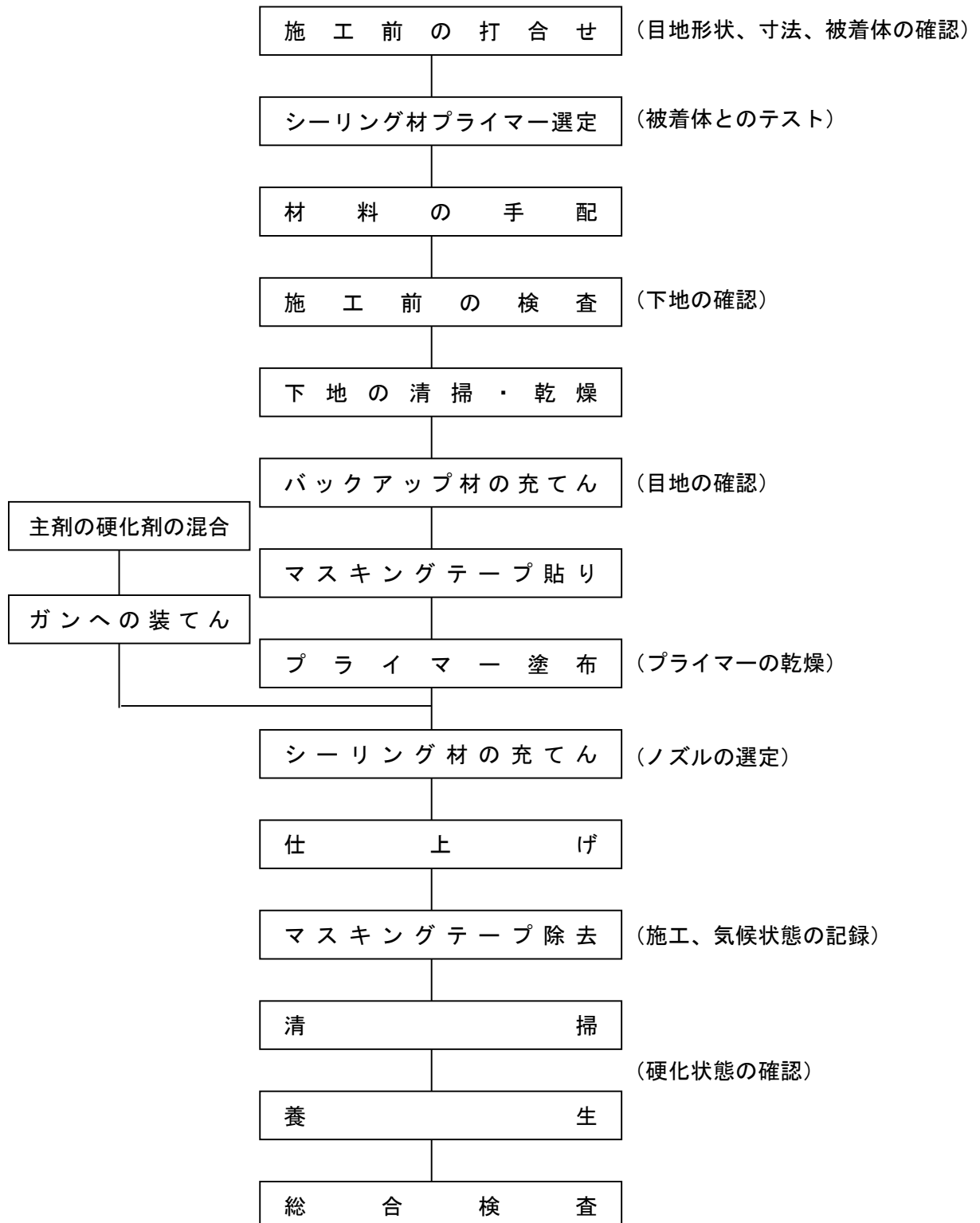
フープ径 : 186Φ (3L 用)、229Φ (4L 用)

III. 施工

1. 施工手順

シーリング工事に関する手順作業は図 1. のフローチャートに従って行う。

図 1. 施工手順



2. 施工前の確認

2-1 材料

2-1シーリング材、プライマー、バックアップ材、マスキングテープ、清掃用洗浄剤、施工用具等指定したものと同一かどうかを確認する。（品名、数量、色など）

2-2 天候

気象条件が悪い時に施工するとシーリング材の性能が低下する恐れがあるので、次の場合は原則として工事を行わない。

(ア) 降雨・降雪時または雨・雪が予想される場合。

(イ) 降雨・降雪後で下地が濡れている場合。

(ウ) 下地の温度が 0℃以下の場合。被着体の表面に結露がある場合。

(エ) 強風で施工に支障をきたす場合。

また、工事に支障がありそうで判断がつかねる場合は担当管理者に相談し指示を受ける。

2-3 下地

シーリング材充填箇所（目地）に次のような欠陥の無いことを確認し、欠陥があれば手直しする。また、工事に支障がありそうで判断がつかねる場合は担当管理者に相談し指示を受ける。

(ア) 目地形状、寸法が図面と異なっていないか。

(イ) 接合部材の固定化が完了しているか。

(ウ) コンクリート下地の場合、ひび割れ、欠損などシールに支障があると思われる現象がないか。

3. 施工

3-1 目地の清掃

トスシール 361 を施工充てんする箇所は、トスシール 361 の付着性を阻害するおそれのある水分、油分、塗料、さび、不純物およびほこりを除去、清掃しなければならない。清掃は清掃用洗浄剤（トルエン、ノルマルヘキサン）を用いて行う。

3-2 バックアップ材、ボンドブレイカーの装着

目地が深い場合の目地深さの調整、変形目地の目地断面形状の調整などいわゆる三面接着をさけるためにバックアップ材を装着する。形状は丸形または角形で目地幅より若干大きいものを選んで使用する。目地深さが浅くて、バックアップ材を使用できない場合は、ボンドブレイカーを使用する。

バックアップ材の装着は、注意してその表面に傷がつかないように行わねばならない。バックアップ材表面の傷は、気泡の原因となる。

3-3 マスキングテープ貼り

プライマー塗布ならびにシーリング材充てん時の汚染を防止すると同時に、シーリング材の両縁の線をきれいに出すようにマスキングテープを目地の両縁にそって貼る。

マスキングテープは、テープの粘着剤が被着体を汚染したり、プライマーの溶剤や直射日光等により軟化した粘着剤が表面に残らぬ製品を使用する。

3-4 プライマー処理

プライマーは被着体により決められたものを使用し、むらなく均一に塗布する。プライマーは当日施工分以上塗布してはならない。プライマー塗布後シーリング材充てんまでは、30 分以上放置する。塗布後ゴ

ミやほこりが付着したときは、異物を除去し、再塗布を行う。シーリング材の充てんが翌日に延びたときも同様に再清掃、再塗布を行う。

3-5 シーリング材の混合

シーリング材の混練はドラム回転型混合機を用いて混合を行うこととし、手練りや目分量での小分けは行ってはならない。

主剤の缶の中にカラーマスターおよび硬化剤全量を入れ装置にセットする。まず5分間混合した後攪拌を停止し、缶壁、底をヘラでこすり落とし、さらに5分間混合する。その間羽根を中心及び缶壁に十分移動させて攪拌効率を上げる。合計の混合時間は、最低10分、最大15分を原則とする。

3-6 ガンへの装てん

よく混合されたトスシール 361 をヘラまたは吸込みで空気の入らぬようにして行う。少量の場合は、吸込みを行うと空気が混入するので、ヘラを使って行う。コーキングガンには目地寸法に適したノズルをセットする。

3-7 目地への充てん

- 1) ノズルの形状寸法が目地に不相当である場合や、ガンの移動速度とシーリング材の吐出量が見合っていないと空気が混入するので、目地に最適なノズルを使用し、目地の深部まで充てんするよう加圧しつつ、一定の速度で充てんする。
- 2) 目地の交差する部分は図2のように一方の目地を充てんしてから交差する目地にノズルの先端を突入し片方ずつ充てん①する。

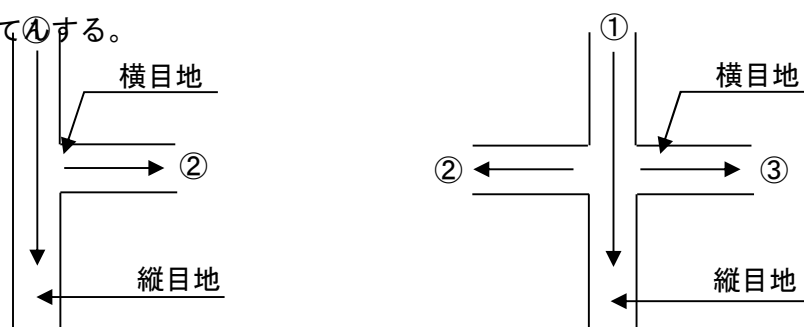


図2. 交差目地の充てん手順

- 3) 打継ぎ箇所は、図3のようにして目地交差部及びコーナー部を避けて行う。打継ぎ部は、後日施工しやすくするため斜め仕上げにし、打継ぎ施工時には既存シーリング面はトルエンにて清掃を行う。

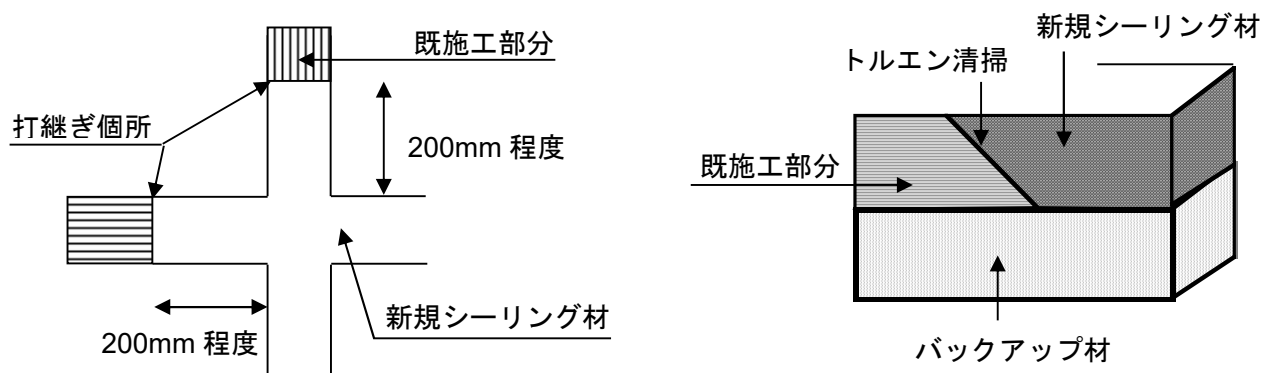


図3. 打継ぎの手順

3-8 ヘラ押えおよび仕上げ

ヘラ押えは、目地の中に充てんしたシーリング材を被着面に対して十分になじませ付着させる意味で、ヘラまたはナイフにより押える重要な処置である。

- 1) ヘラ押えは何度もこねくりまわすとかえって表面はきたなくなるので、押え付けが終わった後、一定方向にヘラを移動させて表面をなめらかに仕上げる。
- 2) 仕上げは、充てん後可使時間内にできるだけ早い時期に行う。

3-9 マスキングテープ除去

ヘラ仕上げ終了後、マスキングテープを速やかに除去する。

3-10 養生

作業終了後は、ほこりの付着、損傷、汚染のないように養生する。

3-11 清掃

- 1) プライマーなどで汚れた部分は直ちに清掃用洗剤を用いて清掃する。ただし、シリコーンシーリング材の場合は、シーリング材硬化後除去する。
- 2) 作業終了後、ほこりの付着・損傷・汚染などの恐れのある部分は、係員と打合せ指示を受ける。

IV. 安全衛生

1. 清掃溶剤、プライマーは換気をよくすることに留意し、火気には十分注意すること
2. 未硬化のシーリング材を目に入れたり、長時間皮膚に付着したままにしないこと。取扱い時には、保護眼鏡および必要に応じて保護手袋を着用することが望ましい。作業終了時は、石けんなどでよく洗浄すること。

V. 保存方法

1. 直射日光を避け、湿気の少ない冷暗所（25℃以下）に保存しなければならない。
2. プライマーは危険物第4類に該当するので、火気厳禁の冷暗所に保管しなければならない。

（注）この施工要領書は標準的なものであるので、各現場ごとにこれを基準にして、それぞれの場合に適した施工要領書を作成することが必要である。